

歯科医療のあり方ゆがめた抑制策

7月に予定されている参院選挙が迫る。安倍政権による社会保障費抑制や消費税増税、憲法9条改憲をストップさせるために、選挙で政治を変えるチャンスだ。政治の転換を願う会員の声を紹介する。

2019 参院選

診療報酬

新点数説明会で講師を務める、年配の先生から度々聞かれます。「診療はぼろぼろええねん。ややこしい改定はええから、基本診療料、技術料あげてくれへんかな」と。

近年、改定が複雑になった要因の一つは、1990

多くの先生が、治療の選択に悩まされます。半年残

社保研究部長・平尾清司



大阪 保険医新聞

大阪府歯科保険医協会 会誌
 発行人 和田武
 大阪府浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-net.org/
 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可

社会保障財源の確保と 税制改革 2

全ての税は福祉目的

立正大学客員教授・税理士 浦野広明

税の在り方を考える場合、憲法を中心に据えることが重要だ。憲法には30条で法律による納税を、84条で法律による課税の原則を規定している。つまり、納税者の権利を保障するには税の支払い方と使い方において憲法の精神を生かすことが求められる。

応能

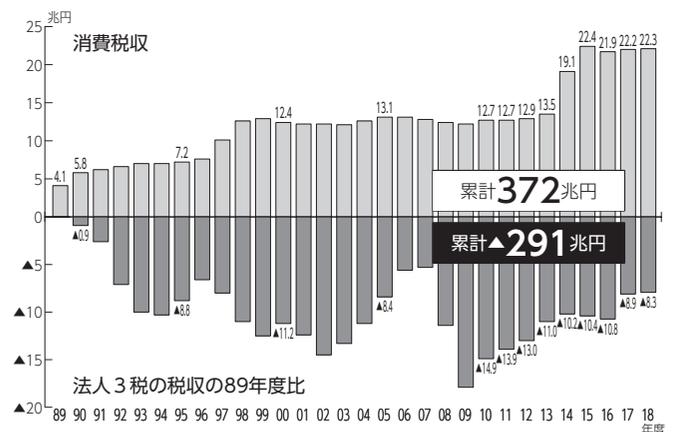
憲法に基づく税負担の在り方は、応能負担原則と呼ばれる。具体的には、①直接税(所得課税)を中心に据える②各種所得を一つにまとめ、累進税率を課す③生計費には課税しない④勤労所得には軽い課税、不労所得には重い課税をする⑤ということだ。国税、地方税だけでなく、社会保険料も含めて全て応能原則にかなったものになければならない。

しかし、安倍政権は社会保障を削りアメリカの兵器を大量に購入する。消費税導入前の1988年の軍事費は3兆7千億円だったが、導入後は増額に次ぐ増額である。89年の消費税導入以来、消費税収は累計372兆円に上るが、法人3税は2018年度までに同291兆円も減収した。消費

税の80%が減税の穴埋めに消えた結果、財政も社会保障も悪化の一途をたどっている。

低所得者ほど負担が重くなる消費税は応能負担原則に反する。使途についても、借金返済や軍事費への支出、大企業・大資産家の税負担の肩代わりなど憲法の精神とは相いれない。憲法に基づき社会保障財源にふさわしい税制改革によって所得の再分配を図ることが求められている。

表 消費税収と法人3税の減収額の推移



2017年度までは国・地方とも決算及び決算見込み額、2018年度は当初予算および地方財政計算額。消費税は地方分(地方消費税、消費税と税)を含む。法人3税には法人税、法人住民税、法人事業税のほか、地方法人特別税、地方法人税、復興特別法人税も含む。

政府の姿勢正したい

改定をややこしくしたもう一つの要因は、不合理な施設基準による診療所の差別・選別です。16年改定で「か強診」が導入され、厳しい施設基準が設けられました。多額の設備投資をしている診療所が「頑張っている」かのような報酬上の配点です。「上級」歯科診療所と「下級」歯科診療所

「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」は6月6日、国会要請に取り組み、地元選出議員を中心に患者窓口負担の軽減や歯科診療報酬の引き上げなどを要請した。村上史好、森山浩行(衆・立民)、清水忠史(衆・共産)、大門実紀史、辰巳孝太郎(参・共産)の各議員が面談に応じた。面談で議員らは、「口腔の健康が医療費を減らすことができることを訴えていきたい」(村上議

消費税ストップ、報酬増要請

歯科署名 立民・共産議員に

「消費税はすべての消費に一律にかかるため、低所得者には重くのしかかる。社会保障の充実など、国民一人ひとりを大切にする政策をしていきたい」(森山議員)、「無駄な兵器の爆買いなどの税の使い道を変えることや、消費税に頼らない社会保障財源のあり方を私たちは提案している。歯科医療の充実や社会保障の改善ストップを実現していきたい」(清水議員)、「歯科医療機関の経営状況や、歯科技士や歯科衛生士の労働状況の改善のためには診療報酬の引き上げが必要だ。改善がよくなった。改善にむけて頑張りたい」(辰巳議員)などと語った。

森山、清水、大門、辰巳各議員に、「保険でよい良い歯科医療を求める請願署名」を500筆ずつ託した。

同日、国会内で開かれた「保険でよい良い歯科医療を求める決起集会」



写真は上から村上、森山、清水、大門、辰巳の各議員

19年夏季特集号 投稿を募集

テーマは自由です。600字以内で顔写真を添えて、下記へお送りください。
 掲載者には3千円のクオカード進呈
 郵送: 〒556-0021大阪府浪速区幸町1-2-33
 FAX: 06-6568-7731
 メール: akira_kn@doc-net.or.jp

今号に同封

この夏に行われる参院選挙での政治選択を呼びかけるリーフレット(保団連作成)を今号に同封しています。

歯界

人間というものは、600万年の人類史から見ると長らく狩猟採集の生活だった。食料を取ってきて、みんなで分けて、食べて、余った時間は、遊ぶ生活であった。ハラリ氏の『サビエンス全史』によると、貧富の格差が生まれた農耕文明より、「豊かな生活」をしていたらしい。

現代でも狩猟採集民の人たちは、文明社会に暮らす人よりも身体能力だけでなく、判断能力、危機管理能力などが、はるかに優れているようだ。

便利で豊かな現代社会で、悲惨な事件が相次いで、川崎登戸殺傷事件や元農水省事務次官による、実子殺しでは、長期化する引きこもりの子どもを高齢の親が養う「8050問題」が話題になっている。

「子どもを最低3人くらい産むように」と言った前五輪相もいたが、必要なのは、産む産まないを尊重し、安心して生育で、老いを迎えられる多様で豊かな社会ではないのか。